

Shinken-Wo-Tsukiageruga-Gotoshi（真剣を突き上げるが如し）

第10期 全先 伸一

何だか、来年の大河ドラマのタイトルのようなのではないか。実は Shinken（真剣）とは、オス（小野ゼミ生）しか持ちえないものである。これらを振り回し、オスはメス（小野ゼミ生以外）に対して強くその力を見せつけ、時には脅威になりうるとさえも言われている。しかしながら今日ほど、金の玉を持った力強いオス（小野ゼミ生）としてこの塾に性をもって生まれてきて良かったと感じた日はないであろう。メス（小野ゼミ生以外）に対し優越感を感じるほど、気持ちの良いものはないからである（もちろん、気持ち良いことは他にもあるが）。動物が元来、オスが求愛するもの、メスは求愛されるものであると言われてきた通り、オスは能動的であり、女は受動的な生物とされてきた。しかしながら、最近では、草食系男子や肉食女子と言われるような新種の生物も生まれてきた。驚くべきことに、前者のような生物は、金の玉を持ちながらも、受動的な生き方をし、後者のような生物は、金の玉を持っていないにも関わらず、能動的な生き方をしているのである。このようなことが確認されてきたのは、ここ最近の話であり、2000年という歴史を踏まえると、さほど気にする必要はないであろう。少し、寄り道をしてしまったが、私は、やはり、オス（小野ゼミ生）として生まれてきてよかったと思う。以下のような経験ができるのもオス（小野ゼミ生）だけだからである。



全国大学生マーケティング大会優勝にて（著者は左端）

戦国時代の頃より、男の仕事＝武士であり、女の仕事＝武士を支えることであるとするならば、男は長い歴史の中で戦うという

ことを DNA（Deoxyribo Nucleic Acid）に刷り込まれてきた生き物である。また、そのようなスピリッツを現代の男もどこかに秘めているはずなのである。平和ボケした私は、小野ゼミでの活動を通じて、心の奥底に置いてきてしまった武士のスピリッツ、すなわち男としての確固たる勇ましさを取り返した。そんな気がするわけなんですね。金の玉を持つ者として、これから社会という戦場に向かう私は、小野ゼミというオス集団で取り返した、武士のスピリッツ、すなわち男としての確固たる勇ましさを振りかざし、「真剣を突き上げるが如し」というタイトルを体現していきたい。

最後に、小野先生と、大学院生の方々、そしてゼミに入れて頂いた M.B.F（My Best Friend）やまぐーに感謝と決意の言葉を述べたいと思います。「ありがとうございました、絶対に卒業してみせます！」